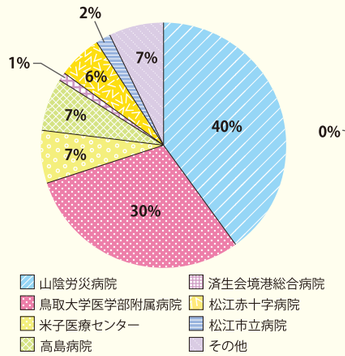
数字でみる錦海リハ

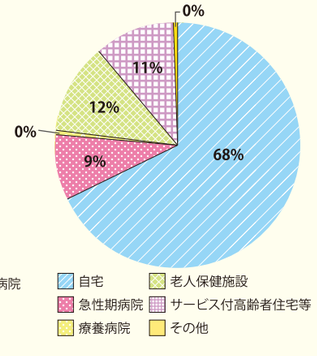
どこから入院されて、どこへ退院されましたか？

平成26年度は203名の入院患者さんがあり、いずれの患者さんも急性期病院など他病院からの紹介による転院でした。退院患者さんは198名あり、そのうち自宅退院の患者さんが68%、サービス付高齢者向け住宅などの新住居も含めた在宅復帰率は85%でした。

入院患者さんの紹介元（n=203）



患者さんの退院先（n=198）



専門雑誌・書籍掲載

今田健（理学療法士・リハビリ技術部係長）、竹内茂伸（言語聴覚士・副病院長）
リスク管理と訪問理学療法の周辺技能 口腔ケア
図解 訪問理学療法技術ガイド、伊藤隆夫 他（編）、文光堂

増原俊幸（理学療法士）、今田健（理学療法士・リハビリ技術部係長）
疾患別訪問理学療法の実際 脱水
図解 訪問理学療法技術ガイド、伊藤隆夫 他（編）、文光堂

外部講演

井後雅之（医師・病院長）、角田賢（医師・副病院長）、竹内茂伸（言語聴覚士・副病院長）、善波吉人（社会福祉士・事務長代理）、岩田久義（言語聴覚士・リハビリ技術部主任）、木佐高志（言語聴覚士）、野々村路子（歯科衛生士）
地域包括ケアを見据えた医科歯科連携のための研修会（全4回コース）、鳥取県西部歯科医師会主催、～2014.11.18、米子市

竹内茂伸（言語聴覚士・副病院長）
講演「回復期リハ病棟における口から食べる支援」
回復期セラピストマネジャーコース第5期、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2014.10.21、大阪府

角田賢（医師・副病院長）
講演「訪問リハにおけるリスク管理～事例を通して～」
島根訪問リハビリテーションネットワーク研修会、全国訪問リハ振興委員会・鳥取県理学療法士会・鳥取県作業療法士会・鳥取県言語聴覚士会主催、2014.10.25、松江市

角田賢（医師・副院長）
講演「機能分化と医療連携　～病床機能報告制度、地域包括ケアシステムで地域医療はどう変化するか～」
第18回松江市脳卒中地域連携パス合同委員会、松江市脳卒中地域連携パス合同委員会主催、2014.10.30、松江市

岩田久義（言語聴覚士・リハビリ技術部主任）
シンポジウム「医科歯科連携のための大切な知恵」医科歯科連携実践で見えてきたその重要性 —ST の立場から—
リハビリテーション・ケア合同研究大会　長崎2014、日本リハビリテーション病院・施設協会 回復期リハビリテーション病棟協会 全国デイ・ケア協会 日本訪問リハビリテーション協会 全国地域リハビリテーション研究会 全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会主催、2014.11.07、長崎県

角田賢（医師・副病院長）
講演「回復期リハビリテーション病棟における全身管理」
病棟管理者研修会、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2014.11.29、東京都

竹内茂伸（言語聴覚士・副病院長）
講演「医療人としてST のあるべき姿」
香川県言語聴覚士会 定期研修会、香川県言語聴覚士会主催、2014.12.21、香川県

児嶋吉功（言語聴覚士）
講演「摂食嚥下障害についてAtoZ」
鳥取県知的障がい者福祉協会食生活分科会研修会、鳥取県知的障害者福祉協会主催、2015.01.16、東伯郡

角田賢（医師・副病院長）
講演「訪問リハにおけるリスク管理～事例を通して～」
鳥取訪問リハビリテーションネットワーク研修会、全国訪問リハ振興委員会・鳥取県理学療法士会・鳥取県作業療法士会・鳥取県言語聴覚士会主催、2015.03.01、米子市

角田賢（医師・副病院長）
講演「短時間通所リハの開設と運営」
平成26年度通所系リハビリテーション研修会、日本理学療法士協会主催、2015.03.14、東京都

学会発表

北山朋宏（作業療法士・リハビリ技術部係長）
当院における転倒転落対策チーム「まくれん隊」の取り組み
日本転倒予防学会 第1回学術集会、2014.10.05、東京都

小谷優平（言語聴覚士）
回リハ病棟ST のコミュニケーション指導の再考 —退院後の家庭訪問を通して—

三島将太（作業療法士）
適応したテーブル高がもたらす食事動作への影響について —当院入院患者の座高数値より算出したテーブル高を用いて—

古岡侑徒（作業療法士）
回復期から生活期にかけての食事姿勢改善への取り組みについて

原大樹（理学療法士・リハビリ技術部主任）
中枢神経麻痺を有する症例における転倒危険因子の検討　—転倒リスクアセスメントシートの合計点および各下位項目に着目して—

永岡直充（理学療法士）
脳血管疾患を発症したのち，1カ月後から開始した前方および後方ステップ練習時における麻痺側下肢筋活動

野坂進之介（理学療法士）
当院における退院前訪問実施時期の現状と課題

河本耕一（健康運動指導士）
短時間型通所リハビリにおける新規依頼の現状と課題

河本耕一（健康運動指導士）
短時間型通所リハビリにおける電子カルテ運用の現状と課題
リハビリテーション・ケア合同研究大会2014 in 長崎、2014.11.02-04、長崎県

佐藤玲子（言語聴覚士・リハ技術部主任）
失構音を伴ったLPAの1例
第38 回日本高次脳機能障害学会、2014.11.28-29、宮城県

岩田久義（言語聴覚士・リハ技術部主任）
回復期リハビリテーション病棟における医科歯科連携実践と地域へ拡げる取り組み
鳥取県福祉研究学会 第8 回研究発表会、2015.02.21、鳥取市

佐藤勝之（言語聴覚士）
動画による情報提供 —退院後の食事環境を維持するための取組み—

野々村路子（歯科衛生士）
病棟専従の歯科衛生士が多職種協働で咀嚼嚥下の回復を目指した一症例

前原瞳（作業療法士）
機械浴脱却における入浴チームの取り組みの効果

仙田春菜（作業療法士）
在宅における入浴方法の実態調査の一考察　—回復期リハビリテーション病棟における入浴指導の質の向上を目指して—

両門美都（理学療法士）
調整機能付き後方平板支柱型短下肢装具の支柱を変化させた条件下の下肢歩行時筋活動

横木貴史（理学療法士）
独居生活を送る1 症例の退院時と退院後1 ヶ月の運動能力を比較し検討した必要な退院計画

神坂綾（社会福祉士）
紹介元急性期病院に向けた情報提供に関する検討
回復期リハビリテーション病棟協会 第25 回研究大会、2015.02.27-28、愛媛県

診療方針：わたくしたちは
回復的リハビリテーションと地域連携を通して
患者さんの社会参加を支援します。

錦海リハビリテーション病院
〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-4-5
TEL 0859-34-2300［代表］
FAX 0859-34-2303

KINKAI NEWS

REHABILITATION HOSPITAL

錦海リハビリテーション病院ニュース

発行：社会福祉法人こうほうえん　錦海リハビリテーション病院
TEL：0859-34-2300［代表］
E-mail：kinkai-hp@kohoen.jp
URL：www.kohoen.jp

2015 VOL. 01

SPECIAL 最前線 1

錦海リハビリテーション病院の目指すところ

当院はお陰様で、今年で開院10年目をむかえました

皆さん、こんにちは。錦海リハビリテーション病院　病院長の井後と申します。当院は社会福祉法人こうほうえんグループでは初めての病院として2006年3月22日に産声をあげ、その後お陰様で地域の皆様に受け入れられて順調に育ち、今年でちょうど10年目を迎えます。これを機にささやかながら広報誌を作成し、当院の活動の一端を紹介するとともにリハビリテーション医療を中心とした地域医療について少しでも地域の皆様のお役に立てるように努めたいと存じます。錦海町は錦海湾に面した閑静な住宅地で緑も多く大学病院や米子駅にほど近く、また当院に隣接して特養きんかい幸朋苑とYMCA米子医療専門学校があり、リハビリテーション療養環境として極めて恵まれた立地条件を備えています。

錦海リハビリテーション病院正面玄関。錦海湾に面し、緑に囲まれた閑静な住宅地にあります。

48床の回復期リハビリテーション病棟は多数の職種、職員で構成されています

病棟は48床と小粒ながら『回復期リハビリテーション病棟入院料1』※1の認可を受け、脳卒中や骨折の手術後など急性期疾病罹患を機に急に不自由を来し困惑されている方を対象に急性期病院から紹介を受け、早期社会復帰を目指した集中的回復的リハビリテーション医療を行っています。現在、PT・OT・STは総勢57名で病棟当たりのリハ専門職数は全国でも最も多い病棟の一つです。その他、看護師27名、介護士16名、ソーシャルワーカー4名、リハ科医師4名など多数の職種で構成されており※2、和気あいあいの雰囲気です。

今後もリハビリテーションを通じて地域医療の一翼を担ってまいります

平成26年度は203名の入院があり、97%は鳥取県西部および島根県東部圏域の急性期病院からの紹介患者さんでした。在宅復帰率は85.5%、平均在院日数は81.4日でしたが、一人暮らしなどの社会的諸条件のため自宅に帰れない事例も多く、法人内外の諸施設との連携のみならず、高齢者住宅などの新たな住まいの掘り起し、介護サービスタッフとの連携などがますます重要と考えています。退院後の医療は基本的にかかりつけ医師に紹介とし在宅慢性期への当院からのリハ提供として通所リハ、訪問リハを併設実施しています。今後ともリハビリテーションを通して地域医療の一翼を担う覚悟でおりますので何卒よろしくお願い致します。

※1：回復期リハビリテーション病棟入院料 1
現在、回復期リハビリテーション病棟は1・2・3の３段階に分かれています。その中で最も基準が厳しいのが、回復期リハビリテーション病棟入院料1です。主な施設基準は　①看護配置常時13対1以上（看護師7割以上、夜勤看護職員2名以上）② 看護補助者常時30対1以上 ③ 専任のリハビリテーション科医師1名以上、専従の理学療法士3名以上、作業療法士2名以上、言語聴覚士1名以上、専任の社会福祉士等1名以上、④ 在宅復帰率7割以上、 ⑤ 新規入院患者の3割以上が重症の患者であること、⑥ 新規入院患者のうち1割5分以上が「一般病棟用の重症度 看護必要度A項目1点以上の患者であること、⑦重症患者の3割以上が退院時に日常生活機能が改善していることとなっています。

※2：錦海リハビリテーション病院　回復期リハビリテーション病棟（48床）

リハビリテーション関連の職員数

●医師:4名(うち リハビリテーション医学会 専門医1名･リハビリテーション医学会 認定臨床医3名)●看護師:27名●介護士:15名（うち 介護福祉士11名）●言語聴覚士:15名●理学療法士:19名●作業療法士:22名●ソーシャルワーカー:4名●歯科衛生士:1名●薬剤師:1名●管理栄養士:1名

2015年5月1日現在（実人数）

SPECIAL 最前線 2

地域医療連携室の紹介
ソーシャルワーカーのお仕事

ソーシャルワーカーを知っていますか?

病気やけがによって生じる不安や心配事について相談をお受けし、患者さんやご家族のお話をよくお伺いしながら、社会福祉の立場から一緒に考え、解決のお手伝いをさせていただく、「相談」の専門職のことです。

例えばこんな時にご相談ください

- 当院へ入院してリハビリ医療が受けたい
- 自宅又は他施設等への退院の相談
- 医療費や生活費等の経済的問題についての相談
- 介護保険、障害手帳、成年後見制度等の社会保障制度についての相談
- 地域の医療・福祉施設や関係機関に関する相談
- 病気や治療の不安についての相談
- 当院へのご意見、苦情の相談

当院では地域医療連携室に4名のソーシャルワーカーが所属しており、主に回復期リハ病棟へ専従配置しています。患者さんが当院へ入院される前の入院相談の段階から、退院後の生活にいたるまで、患者さんやご家族を中心に相談をお受けし、リハビリテーションチームの一員として他の専門職と共に患者さんの生活支援にあたっています。また、患者さんが病状に応じた適切な医療や福祉サービスが利用できますよう、地域の医療・福祉施設、公的機関といった関係機関との連携推進に務めています。

「誰に相談したらいいかわからない?」などのご相談にも精一杯お応えいたします

当院では入院時より患者さんお一人お一人に担当のソーシャルワーカーがおります。どうぞお気軽に私たちソーシャルワーカーにご相談ください。

錦海リハのソーシャルワーカー(4人体制)

錦海リハでは、充実した支援体制で治療や退院後の生活を過ごしていただけるよう、48床に**4人**のソーシャルワーカーを配置しています。ソーシャルワーカーは全て**社会福祉士**で、認定社会福祉士などの認定取得者もおり、質向上にも努めています。また、**患者さん担当制**により、入院時から退院に至るまで、継続的な相談が可能となっています。退院前には退院後の支援を担う、ケアマネジャーやかかりつけ医、介護サービス事業者にも協力頂き、**退院後のケア**へ円滑な引き継ぎが可能となるよう、関係者が一同に会する**地域カンファレンス**を開催しています。

お問い合わせ先 地域医療連携室 TEL:0859-34-2387 FAX:0859-34-2390

介護保険サービス
通所リハビリテーション
きんかいだより

通所リハビリきんかいのご紹介

当通所は、①半日(午前、午後の2部制)でのサービス提供、②すべてのご利用されている方にリハビリ職員が個別リハビリを実施、③入浴・食事なし、といった特徴をもつ短時間型通所リハビリです。

平成27年4月の介護報酬改定により、通所リハビリも更に自宅での生活を意識したサービスの提供をするよう求められました。

これまで以上にご利用者皆様の生活を意識し、関連する他の事業所との連携を深めていきながら、皆様のやりがいや生きがいを持った生活に向けて少しでもお手伝いができればと考えています。

これからも、通所リハビリきんかいをどうぞよろしくお願いします。

お問い合わせ先 通所リハビリテーションきんかい 直通電話:0859-34-2388

Aさんのご利用の流れ(要介護2)

8:40	自宅に迎え行く
8:50	錦海到着 水分補給・バイタル測定
9:00	準備体操
9:20	低周波
9:30	PTによる個別リハビリ
9:50	水分補給
10:00	健康運動指導士による体操
10:20	パワーリハビリ
10:40	歩行練習
11:00	絵手紙練習
11:20	歩行練習
11:40	休憩
12:00	錦海出発

Bさんのご利用の流れ(要支援2)

12:50	ご本人の運転で来所 水分補給・バイタル測定
13:00	OTによる個別リハビリ
13:30	パワーリハビリ
13:50	水分補給
14:10	帰宅

TOPICS 01 地域包括ケアを見据えた西部歯科医師会研修会を開催

平成26年11月18日まで全4回シリーズで歯科医師対象の『地域包括ケアを見据えた医科歯科連携のための研修会』を開催し、錦海リハ病院スタッフが講師を務めました。

鳥取県西部歯科医師会主催の本研修会の目的は、当院と鳥取県西部歯科医師会との連携により、在宅現場で活躍できる歯科医師を養成していくことにあります。歯科医師会の「これまでは訪問歯科診療はごく限られた歯科医師によって行われており、地域での拡がりがないため、超高齢社会の中でのニーズの高まりに合わせ、医科歯科連携を推進し、より質の高い訪問診療が提供できるように」との考えに、当院が応えたものです。この様な研修会は全国でも珍しく、これを機会に鳥取県西部圏域の医科歯科連携が進み、地域包括ケアシステム構築に向けての一助となればと思います。

井後雅之病院長による講義
参加者は全ての回で30名を超え大変盛況でした

TOPICS 02 電子カルテ病院間参照システム『おしどりネット3』記者発表

鳥取県医療連携ネットワークシステム(おしどりネット3※1)の利用状況について、平成26年12月18日鳥取大学医学部附属病院において記者発表がありました。当院からも角田賢副病院長が利用者代表として出席し「おしどりネット3で参照できる電子カルテ情報を有効活用することで、これまで以上に密接な医療連携が可能となり、患者さんの安心感にも繋がっている」と感想を述べました。

おしどりネットの感想を話す角田賢副病院長

※1『おしどりネット』とは?

鳥取大学医学部附属病院が主体となり構築された、ITを活用した電子カルテ病院間参照システムの名称です。これにより、同意を得た患者さんの電子カルテ内の診療記録を病院間で参照することが可能なります。個人情報保護については、指定の講習会を終了した職員のみに権限を付与し、病院間での個人情報保護に関する契約や参照ログによる参照監査などの対策もなされています。

平成21年4月に鳥取大学医学部附属病院と西伯病院との相互参照システムとして運用が開始され、平成23年8月には錦海リハビリテーション病院が参照病院として加わり、平成24年5月には「おしどりネット2」、平成26年4月には「おしどりネット3」となり、連携病院の検査データが経過順に並ぶなどに改良されました。

現在、参加病院は県内全域となり、診療所まで拡大しています。

TOPICS 03 第5期 回復期リハビリテーションセラピストマネジャーを認定取得

原大樹 理学療法士(リハビリ技術部主任)が第5期回復期セラピストマネジャーの認定を取得しました。

本認定の主催である回復期リハビリテーション病棟協会は養成研修の目的を「質の高いリハビリテーションサービスの提供は当然のこと、人的・環境的リスクに関するリスク管理及び多職種との協働、さらに病棟運営に寄与し組織管理を実践できる回復期リハビリテーション病棟におけるセラピストマネジャーとしての PT・OT・ST を育成する」としており、養成研修参加、試験合格により認定が付与されます。

当院では既に理学療法士2名、作業療法士1名、言語聴覚士1名の認定取得者を有しており、この度で計5名となりました。認定取得者の一層の活躍を期待しつつ、今後も職員教育による質向上の取り組みを、積極的に推進して参ります。

TOPICS 04 第19回こうほうえん研究発表大会開催

平成27年3月24日(火)に毎年恒例となっている、こうほうえん研究発表会が第19回として開催され、一般参加者を含め多数の方々の参加による熱を帯びた活発な意見交換がなされました。

当日は廣江晃副理事長より先頃受賞した「日本経営品質賞」の受賞報告があり、地域の皆様の支援と職員皆で努力を重ねた成果として、その感動を共にしました。特別講演では慶応義塾大学名誉教授の田中滋先生より「社会福祉法人改革の歴史的意義と課題:社会福祉法人に対する期待を込めて」と題し講演頂きました。社会福祉法人改革、地域包括ケアの制度設計においても中心的役割を担う、田中滋先生から多くの提言を頂きました。

今年の口演発表の演題数は124題。当院からは日頃の研究成果を30演題発表し、櫃田真由美 言語聴覚士のグループが遠藤泰治賞※2を受賞しました。演題名を「きんかい幸朋苑における口腔ケアの質向上を目指した取り組み」とし、福祉施設職員への週1回の指導介入を通じ、施設内での「口腔ケアプロジェクト」の開設支援、質の高い口腔ケアを福祉施設職員の業務に落とし込むに至った取り組みが高く評価されました。

※2遠藤泰治賞:他界されました、遠藤泰治元次長(法人本部 教育研修人財部)の功績を長く讃えたいとの思いが込められて創設された賞です。こうほうえん法人研究発表会優秀演題賞の名称としています。

廣江研理事長による開会あいさつ